

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【宮原小学校】

| | |
|----------|---|
| ⑥ | 次年度への課題と授業改善策 |
| 知識・技能 | 全国学力・学習状況調査や授業実践等から、引き続き基礎的な学力を定着させることに課題があることが分かった。基礎的な学力の定着を図りながら、「何をどのように学ぶか」といった自立的に学ぶ児童の育成、授業づくりを目指していきたい。令和7年度は、「自立した学び手」を育成する授業づくりについて研究し、これまでの教師主導の授業を見直し、児童主体の授業の在り方を追求していく。 |
| 思考・判断・表現 | 少しずつではあるが自分の意見を聞き手に分かりやすく伝えようとする児童が増えてきている。次年度以降、国語の授業だけでなく他教科等においても、自分の考えを伝え合う活動を効果的に設定した授業実践を目指して研修を進めていく。自分なりの思いや考えをもたせるための工夫や、効果的な交流のためのグループ編成などの手立てに取り組んでいく。 |

| | | |
|----------|--|---|
| ① | 今年度の課題と授業改善策 | |
| | 学習上・指導上の課題 | 授業改善策【評価方法】 |
| 知識・技能 | <p><学習上の課題> 昨年度全国学力・学習状況調査や授業実践等から、基礎的な学力の定着に課題があることが分かった。</p> <p><指導上の課題> 児童が反復・習熟に取り組み時間を効果的に設定していく必要がある。</p> | <p>⇒ ①「ドリルパーク」「スタディサプリ」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組み【朝自習・授業時の実施】。 ②授業中に児童が自らの学びを振り返る時間を設定し、次の学びに生かせるようにする【週3回以上設定】。</p> |
| 思考・判断・表現 | <p><学習上の課題> 学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができている児童とそうではない児童がいる。</p> <p><指導上の課題> 児童が自己表現する過程の見取り方について一層理解を深める必要がある。</p> | <p>⇒ 学習活動の中に話し合う活動や共同編集を位置付け、協働的な学びを通して考えたり、表現したりすることができるようにする。 【R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が80%以上】。</p> |

<小6・中3> (4月~5月)

| | | |
|----------|-------|---|
| ⑤ | 評価(※) | 調査結果 授業改善策の達成状況 |
| 知識・技能 | A | 朝自習・授業時に、プリントや「ドリルパーク」「スタディサプリ」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組むことができた。ワークシートやドリルパーク等に意欲的に取り組む児童の姿が見られた。授業中に児童が自らの学びを振り返る時間を設定し、次の学びに生かせるようにすることができた。SSDBの授業アンケートも活用することができた。 |
| 思考・判断・表現 | B | 学習活動の中に話し合う活動や共同編集を位置付けられた授業は、6割程度であった。さらに協働的な学びを推進していけるよう、活動の中で話し合う活動や共同編集を、単元の中で1回以上位置付けていく。 |

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

| | | |
|----------|---|--|
| ② | 全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察) | |
| 知識・技能 | 令和6年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、全国(公立)の平均正答率と比較したところ、国語、算数共に上回る結果であった。国語においては、話し言葉と書き言葉との違いに気付く問題で、課題が見られた。引き続き、みやりんタイム(朝学習)や授業において、ワークシートやドリルパーク等を活用し、言葉の特徴や使い方の基本的な学習の反復・習熟に取り組んでいく。 | |
| 思考・判断・表現 | 令和6年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、全国(公立)の平均正答率と比較したところ、国語、算数共に上回る結果であった。特に、国語の「読むこと」に関する問題で、人物像を具体的に想像することができるかどうかを見る問題において、正答率が全国(公立)比べて、高い結果であった。全教育課程における言語活動の充実が成果として表れてきている。 | |

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

| | | |
|----------|---|--|
| ④ | さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察) | |
| 知識・技能 | 国語の「正しい漢字に直す問題」において課題がみられた。その漢字の意味を考えて使うことができていないと考えられる。算数の領域「数と計算」において課題が見られた。「小数の減法の問題」や「式に合う問題を選ぶ問題」に課題があると考えられる。引き続き、計算の方法だけではなく意味を考える活動を大切にしていく。 | |
| 思考・判断・表現 | 国語の領域「読むこと」において課題がみられた。登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基にとらえながら読むことに課題があると考えられる。理科「エネルギー」を柱とする領域の平均正答率が低く、課題が見られた。特に、回路の理解や磁化した釘の性質を問う問題の平均正答率が低いことから、観察、実験などを行った後に、なぜこのような結果となったのかを確認する活動が不足していることが考えられる。同じ実験を行ったにもかかわらず他のグループと違う結果になった場合なども含め、結果や考察を全体で確認し、定着へと結び付けていきたい。 | |

| | | | |
|----------|-------|--|--|
| ③ | 中間期報告 | | 中間期見直し |
| | 評価(※) | 授業改善策の達成状況 | 授業改善策【評価方法】 |
| 知識・技能 | B | 朝自習・授業時に、プリントや「ドリルパーク」「スタディサプリ」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組むことができた。自己の振り返りができる時間をほぼ毎時間設定しているが、時間内に実施できない時もあるため、タイムマネジメントをしっかりと行っていく。 | ①変更なし ②授業中に児童が自らの学びを振り返る時間を設定し、次の学びに生かせるようにする【週1回以上設定】。 |
| 思考・判断・表現 | B | 学習活動の中に話し合う活動や共同編集を位置付けられた授業は、6割程度であった。さらに協働的な学びを推進していけるよう、活動の中で話し合う活動や共同編集を、単元の中で1回以上位置付けていく。 | 変更なし |

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)